

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	30-22-1	2.子育て・家族・教育／3.まちづくり・交通、 7. シビックプライド・観光	加古川市役所
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	まちなかダイバーシティ加古川 ～高齢者の健康交流・子どもの学習環境カイゼン～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	チーム兵庫大学大学院 B M		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	7 名		
代表者（公開）	松本恭輔		
メンバー（公開）	阿藤政志 井階友貴 梶澤裕也 川端教文 高野敦子 野々村竹弘		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

○認知機能の低下がみられる高齢者の見守り：見守りサービスの利用が増えない現状を打破するため、空きスペースを活用した交流事業（いきいき百歳体操等）の実施による認知症リスク減少効果を狙う。また、BLE タグを会員証に利用することで見守りサービス利用者増加を狙う。

○加古川市の空き家の学習室としての活用について：空きスペースを活用して IT 教育、放課後クラブ（加古川てらこや等）、地域食堂を実施し、高齢者・若年者を含む幅広い年齢層を対象とした、みんなの居場所を提供する。ダイバシティを実現しながら各々が役割を持って誰かの役に立てる、緩い連携のある楽しいスペースづくりを目指す。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要で

加古川市内の空き店舗・空き家を活用することで、高齢者の交流事業のためのスペースを創出する。高齢者への「交流事業によって週 1 回以上の交流によって認知症リスクの低下と、その利用のために BLE タグを持たせることで見守りサービスとしても機能させる。空いた時間に学生が学習室として、ママがワークスペースとして利用ができるようなフリースペースを街中に創出するための家守事業を行う。

○事業内容

1. 空き店舗、空き家の活用による家守事業：
2. 高齢者向けの交流事業の提供：会員証兼鍵に BLE タグを活用
3. 学生向けの学習室スペースの提供：会員証兼鍵に BLE タグを活用
4. その他フリースペースの活用事業：高齢者、若年者、チャレンジが集う場所

(仮) 一般社団法人



○想定する利用者 ⇒ 利活用シーン

高齢者（MCI・認知症予備軍）・子ども・学生・ママ ⇒ 管理人（見回りパトロール）、交流スペース、学習室、地域食堂、コワーキングスペース

教育（兵庫大学、学習塾等）・福祉事業者 ⇒ プログラミング教室、デイサービス、認知症カフェ、福祉作業所

○民間事業者の利用：若年者、高齢者向け IT 教育の実施

・若者の向け IT トップガン教育：日本の IT を引っ張る若きエースの育成

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

・高齢者向け IT トップガン教育：日本の IT を引っ張る高齢エースの育成

※双方の IT 教育が出来る高レベルな講師：若者向けには熟年プログラマーで OJT 経験がありその経験に基づいてあまり教えずに OJT で育てられる人材が必要。高齢者向けには、やる気のある方に付き添って優しく引っ張れる方が必要。プロボノ等の人材活用を想定。

※下記はこれから考えられる子ども向け教育の事例です。



○NPO 団体（非営利組織）等の利用拡大：「放課後クラブ」とその運営、「加古川てらこやプロジェクト」との連携

・イエナプラン：年齢、学年に関係なく相互に知識・経験を共有する方法

・加古川てらこやプロジェクトとの連携：子ども向けの教育イベント、時間に余裕のある高齢者（適任者）の講義



○会員向けサービスの利用拡大：「地域食堂」の運営

・季節の食材、食育を考えながらボランティアと協議、決定してゆく。

・体験学習メニュー

○フリースペース、コワーキング（学習）スペースとしての利用拡大

・高齢者向けの健康イベント：健康体操、笑いヨガ、ウォーキング等

・地域活動を行っている NPO 等に会議スペースを提供

・リモートワーク、自習スペースと機会の提供

※基本的に BLE タグ利用者とし管理はその者か近所の利用者とする。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説

2. アイデアの説明（公開）

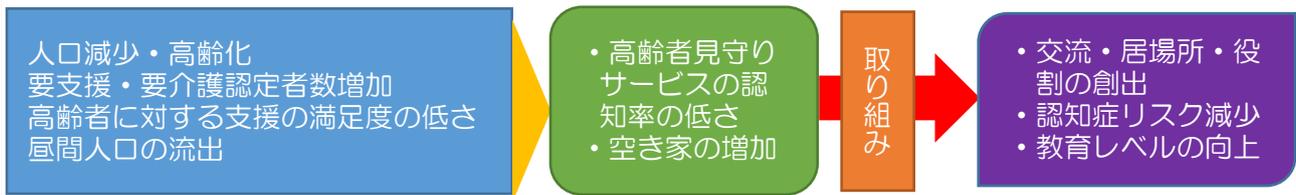
(2) アイデアの理由（公開）

明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

今回我々は、加古川市や全国のさまざまなデータおよび知見から、加古川市では1. ①**高齢者見守りサービスの認知率の低さ**や②**空き家・空き店舗の増加**が課題となっており、2. それには①**人口減少および高齢化**、②**要支援・要介護認定者数の増加**、③**高齢者に対する支援の満足度の低さ**、④**昼間人口の流出**が影響していると考え、前述の取り組みを計画した次第である。取り組みの結果、3. ①**交流・居場所の創出および役割の創出**、②**認知症リスク減少**、③**教育レベルの向上**が期待できると考えている。



1. 表面化している加古川市の現状課題意識

(1) 高齢者見守りサービスの認知率の低さ（図1）

加古川市はしない1,700箇所以上（※要確認）に見守りカメラおよびBLEタグ検知器を設置し、高齢者の見守りサービスを提供しているが、高齢者見守りサービスの認知度は28.3%、高齢者見守りサービスのボランティアとして参加するときに利用が必要になる「かこがわアプリ」の認知度は20.3%と、見守りカメラの認知度68.9%に比して低迷している。

(2) 空き家・空き店舗の増加（図2・3）

加古川市においては空き家が増加傾向であり、平成15年に比して平成25年の伸び率は132.7%となっている。また、空き店舗は特に駅前商店街では増加傾向にあり、担当課の把握部分だけでも29件空いている。

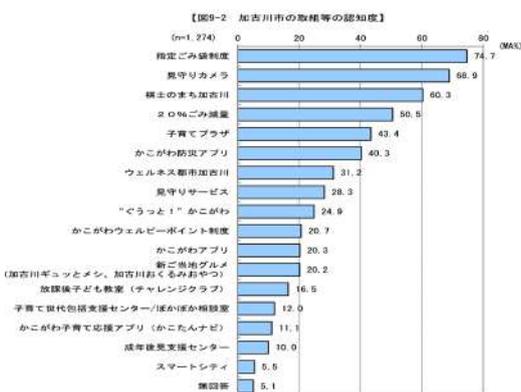


図1：取り組み等の認知度

※出典：加古川市市民意識調査（R2）

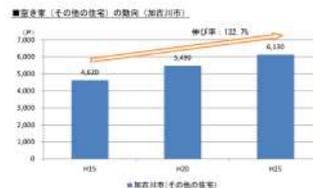


図2：空き家の動向

※出典：加古川市空家等対策計画（H30）



図3：空き店舗推移データ ※産業振興課作成

2. 1. に影響を与える深層課題意識

(1) 人口減少・高齢化

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

地域経済分析システムによれば、加古川市の人口は今後減少する見込みで、老年人口割合は 2040 年代をピークに上昇する見込みである。

(2) 要支援・要介護認定者数の増加

加古川市統計書（R2）によれば、加古川市の要支援・要介護認定者数の第 1 号被保険者数に対する割合は、平成 27 年度に 16.8%であったのに対し、令和元年度は 18.2%に増加している。

(3) 高齢者に対する支援（図 4）

加古川市民は、高齢者に対する支援が重要と感じながらも、提供される支援への満足度は低い。

(4) 昼間人口の流出（表 1）

加古川市の人口は昼間に市外に流出する傾向にある。市外に通勤・通学することがその理由と考えられる。

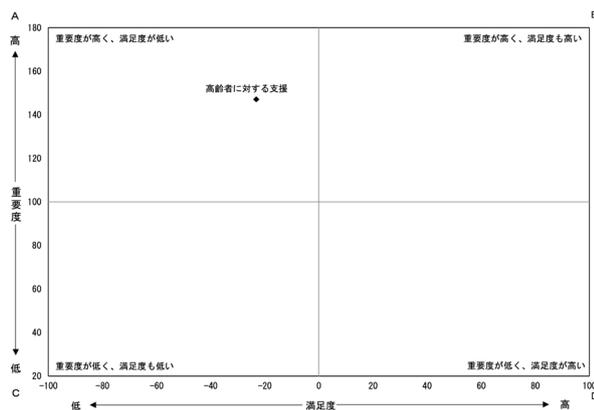


図 4：高齢者に対する支援の満足度・重要度

※出典：加古川市市民意識調査（R2）

2-22 昼間人口及び夜間人口

区分年	昼間人口	夜間人口	昼間人口指数 (%)	流出人口	流入人口	流出超過	流出超過率 (%)
7 年	225,502	260,229	86.7	69,365	34,638	34,727	100.3
12 年	230,870	265,910	86.8	68,133	33,093	35,040	105.9
17 年	231,285	264,443	87.5	67,622	34,464	33,158	96.2
22 年	235,670	266,937	88.3	65,416	34,149	31,267	91.6
27 年	236,758	267,435	88.5	66,239	35,562	30,677	86.3

資料：総務省統計局「国勢調査」

(注) 昼間人口指数 = 昼間人口 ÷ 夜間人口 × 100

流出超過率 = 流出超過 ÷ 流入人口 × 100

各年10月1日現在

表 1：昼間人口および夜間人口の推移

※出典：加古川市統計書（R2）

3. 取り組みの結果期待できる効果

(1) 交流・居場所の創出、役割の創出

空き家を活用した家守事業および教育・福祉事業により、利用者同士の交流、市民への居場所の提供が可能となり、個人と地域のソーシャル・キャピタルが向上すると期待できる。また、各事業を地域主体に運営することで、役割の創出にもつながる。

(2) 認知症リスク減少（図 5）

週 1 回未満の交流頻度は認知症発症のリスクであることが証明されており、本取り組みにより交流を創出することは、認知症リスクを提言させることにつながる。尚、この効果はただ単に交流するだけでなく役割を持って交流する方が効果的であることも報告されている。

(3) 教育レベルの向上（図 6）

ソーシャル・キャピタルの醸成により教育レベルも向上することが報告されているため、本取組中の教育事業は的を射た事業であると考えられる。

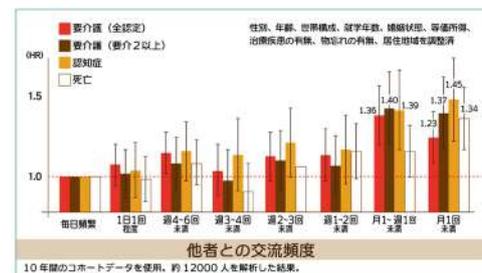


図 5：交流頻度と認知症リスク

出典：斉藤ら、日本公衆衛生学会雑誌 2015；62(3)：95-105。

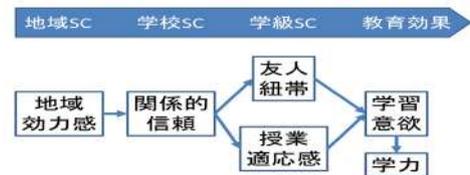


図 6：ソーシャル・キャピタルと教育効果

出典：露口健司・編（2016）ソーシャル・キャピタルと教育、ミネルヴァ書房、p22 より改変

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**

2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実施主体

地元学生や市民、ボランティア団体、民間企業、農家等で組織し、法人化（一般社団法人）を目指す。法人で賃貸契約を締結し、民間事業者への転貸とフリースペースの運営を行う。交流事業等の自主事業についても随時実施、拡大を図る。

2. 実現に必要な資源の大まかな規模とその現実的な調達方法

(1) ひと（地域内のボランティア（有償）で結成 市民、企業、学生等）

- ① リーダー（管理者）
- ② IT 担当：見守りサービスとの連携
- ③ 高齢者見守り（話し相手、運動機能向上等）
- ④ 小中高校生対応（学習支援、遊び相手等）
- ⑤ 調理

(2) もの（使っていないものの提供や行政からの支援、寄付等）

- ① 拠点（空き家 商店街の中の空き家や空き店舗だと尚良し）候補地：5～10 箇所
商店街の中に拠点を設置できれば、そこに通う人が周辺の店で買い物をすることが予想される上、商店街からの協力も得ることが可能になると考えており、積極的に空き店舗の活用を検討する。
- ② IT 機器（高齢者見守り関係、学習支援演習用 PC 等）
見守りタグ×スマートロックについて関連事業者と要相談。
※加古川市内に設置されている見守りカメラとの連携を想定して管理事業者には実現可能性をヒアリング済み。
- ③ 備品
フリースペースとして活用するための備品として、テーブルや椅子が必要。
一部は地域からの寄付等を想定しており、必要に応じて DIY ワークショップを実施して自分たちで製作することも想定している。
- ④ 食材（店で廃棄される予定だがまだ食べることができる食材、近隣農家からの寄付等）
生産者と消費者、販売者と消費者もつなぐ場にするすることで、生産者は消費者の生の声が聞け、消費者は生産者の苦労や想いを聞くことができ、また、昨今問題となっているフードロスについて、一人一人が考えるきっかけになる実践的な食育も可能となる。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス



①空き家・空き店舗調査（4月・5月）

加古川市内の中心市街地とバス等の二次交通でつながりやすい地域を中心に空き家・空き店舗を5～10箇所候補地として探し出す。

②事業計画及び資金調達計画の作成（4月～6月）、法人設立（6月）

一般社団法人の設立を想定しており、活用可能な加古川市及び兵庫県の補助金・助成金についても調査済み。必要書類の作成をして関係者間での運営ミーティングを定期的に行う予定。

③物件契約（7月） ※夏休みを利用して兵庫大学等と連携してテスト運用を実施

拠点（空き家等の活用）を確保した後、タグ等を使用した高齢者見守りや介護予防、認知症オレンジリングカフェ*、HU ブレイク体操（兵庫大学）*、いきいき百歳体操*等による介護予防や多世代交流をテスト的に実施。

その拠点には、地域住民（老若男女問わず）に参加いただき、子どもが参加した場合は高齢者が「先生」となって日本の古き良き伝統歴史文化を伝えることや、兵庫大学（学生・教職員）が学習支援を実施。加え、昼食もしくは夕食を提供（食材や調理は上述のとおり）することで、孤食を防ぎ、参加者が孤立することなくいつでも相談でき、「あそこにいけば必ず誰かがいる」という安心できる「居場所」の創発に寄与する。高齢者は社会参加の役割ができるので自宅から出る機会が増えて介護予防や生きる目的ができる上、地域で次の世代を育む環境づくりを具現化できると考える。

*兵庫大学で実践中